

埼玉県民間事業者CO₂排出削減設備等導入補助(中小規模事業所) 事業計画書
(省エネ設備導入事業)

1 事業実施者

事業実施者	名称	株式会社〇〇〇〇〇				
	代表者役職名	代表取締役 〇〇 〇〇				
	主たる事務所の所在地	〒012-3456 埼玉県〇〇市〇〇△-△-△				
	産業分類上の大分類	〇〇業	資本金又は出資金の額	〇〇〇万円	常時使用する従業員数	〇〇人
実施場所	事業所名称	□□工場				
	事業所所在地	〒987-6543 埼玉県〇〇町〇〇□-□-□				
連絡先	所属名	〇〇部〇〇課	電話	〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇		
	職名	課長代理	FAX	〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇		
	氏名	〇〇 〇〇	メール	XXXXXXXX@XXX.co.jp		
	連絡先住所(郵送先)	〒987-6543 埼玉県〇〇町〇〇□-□-□		今後の問い合わせや書類の送付等はすべてこの連絡先記載あてに行いますので、もれがないように記入してください。		
リース事業者(※リース事業者から設備をリースする場合のみ)						
リース会社	名称					
	代表者役職名					
	主たる事務所の所在地	〒				
連絡先	所属名	リースによる申請の場合のみ記入				
	職名			FAX		
	氏名			メール		
	連絡先住所(郵送先)	〒				

2 事業内容

対象設備	照明設備、ボイラーの更新、太陽光発電設備の設置		
事業概要	□□工場において、次の設備を更新・新設することで省エネ、省CO ₂ をはかるもの ・照明設備を水銀灯からLEDに更新 ・ボイラーの燃料転換(A重油から都市ガス) ・太陽光発電設備		
導入設備	導入前	導入後	
	①照明設備 ・水銀灯…400W×10台(1990年導入) ・蛍光灯…80W×100台(1993年導入) ②ボイラー ・重油焚ボイラー 10t/h×1基(1998年導入) ・重油タンク 50kℓ×1基(1998年導入)	①照明設備 ・LED…120W×10台 ・LED…50W×60台 ②ボイラーの更新・燃料転換 ・高圧貫流ボイラー 5t/h×2基 ※重油タンクは廃止 ③太陽光発電設備 9.9kW×35枚	
既存設備、導入設備に関する機器の能力、数量等を記載する 複数種類の設備を整備する場合は、①②③④のように区分する ※この計画書を審査会での選定時に添付します。 (導入前後の中身が比較できるよう左右の列を揃えるなど見やすい記載をお願いします) (注)導入効果予測欄は自動計算で算出されるため、ここに直接入力しないでください			
導入効果(予測)	導入前	導入後	CO ₂ 排出削減予測量
	554.8 t-CO ₂ /年	333.6 t-CO ₂ /年	221.2 t-CO ₂ /年

3 事業費内訳

(単位 円)

区分	機器費			工事費	合計	
	単価	数量	計			
補助対象経費	LED照明(120W)	100,000	10	1,000,000	150,000	1,150,000
	LED照明(50W)	40,000	60	2,400,000	250,000	2,650,000
	高圧貫流ボイラー	2,500,000	2	5,000,000	1,000,000	6,000,000
	太陽光発電設備	1,500,000	1	1,500,000	1,000,000	2,500,000
	「事業費内訳」の記載にあたっては、事業計画、図面、見積書と整合がとれていることを確認してください。 また、導入設備の概略仕様、数量の詳細などを添付してください。					0
計			9,900,000	2,400,000	12,300,000	
補助対象外経費	既存設備撤去費			1,000,000		1,000,000
	既存設備移設費					0
	既存設備にかかる処分費			500,000		500,000
	諸経費(共通仮設費、一般管理費等)			1,000,000		1,000,000
	その他					0
計			0	2,500,000	2,500,000	
総計(税抜き額)	見積書の合計額(税抜き額)と一致すること。				14,800,000	
消費税及び地方消費税額					1,184,000	
総事業費	見積書の合計額(税込額)と一致すること。				15,984,000	

(注) (1)補助対象経費の区分欄は、導入設備ごとに名称を記載すること。

(2)補助対象外経費のその他欄は、例えば照明設備で球替えのみの分など補助対象とならない経費を記載すること。

4 補助金申請予定額の算出

(単位 円)

補助対象経費の合計	×	補助率	=	算出結果	いずれか低い額	上限額
12,300,000		1/3		4,100,000		5,000,000

※1万円未満切捨て

5 費用対効果

総量削減効果	年間CO ₂ 排出削減予測量	221.2 t-CO ₂ /年
	対象設備の法定耐用年数	10,15,17 年
	法定耐用年数分のCO ₂ 排出削減予測量	2,253.7 t-CO ₂ /法定耐用年数
費用対効果	補助金申請予定額	4,100,000 円
	法定耐用年数分のCO ₂ 排出削減予測量	2,253.7 t-CO ₂ /法定耐用年数
	1t-CO ₂ 削減当たりの補助金申請予定額	1,819 円/t-CO ₂

(注) 対象設備の法定耐用年数は、財務省令「減価償却資産の耐用年数等に関する省令」による。

申請の条件は、この金額が5万円以下となることです。

6 CO₂排出削減量算定(複数種類がある場合は種類ごとに記載)

照明

導入前	
既存照明	(使用時間・日数は直近1年分の実績を採用)
400 W × 6 台 × 8 時間/日 × 260 日 ÷ 1000 =	4,992.00 kWh (説明) 工場 1 F
400 W × 4 台 × 8 時間/日 × 260 日 ÷ 1000 =	3,328.00 kWh 工場 2 F
100 W × 25 台 × 10 時間/日 × 260 日 ÷ 1000 =	6,500.00 kWh 店舗部分
100 W × 30 台 × 10 時間/日 × 311 日 ÷ 1000 =	9,330.00 kWh 本社事務室
100 W × 5 台 × 12 時間/日 × 311 日 ÷ 1000 =	1,866.00 kWh 本社玄関
□ W × □ 台 × □ 時間/日 × □ 日 ÷ 1000 =	0.00 kWh □
□ W × □ 台 × □ 時間/日 × □ 日 ÷ 1000 =	0.00 kWh □
□ W × □ 台 × □ 時間/日 × □ 日 ÷ 1000 =	0.00 kWh □
□ W × □ 台 × □ 時間/日 × □ 日 ÷ 1000 =	0.00 kWh □
合計	26,016.00 kWh
26,016.00 kWh ÷ 1000 × 0.495 (排出係数) = 12.9 t-CO ₂ /年	

※導入前後のエネルギー使用量は、当該設備の能力、稼働時間等から算出してください。

導入前のCO₂排出量

12.9 t-CO₂/年

導入後	
導入予定照明	(説明)
120 W × 6 台 × 8 時間/日 × 260 日 ÷ 1000 =	1,497.60 kWh 工場 1 F (A)
120 W × 4 台 × 8 時間/日 × 260 日 ÷ 1000 =	998.40 kWh 工場 2 F (A)
50 W × 18 台 × 10 時間/日 × 260 日 ÷ 1000 =	2,340.00 kWh 店舗部分 (B)
50 W × 30 台 × 10 時間/日 × 311 日 ÷ 1000 =	4,665.00 kWh 本社事務室 (B)
50 W × 20 台 × 12 時間/日 × 311 日 ÷ 1000 =	3,732.00 kWh 本社玄関 (B)
□ W × □ 台 × □ 時間/日 × □ 日 ÷ 1000 =	□ kWh □
□ W × □ 台 × □ 時間/日 × □ 日 ÷ 1000 =	□ kWh □
□ W × □ 台 × □ 時間/日 × □ 日 ÷ 1000 =	□ kWh □
□ W × □ 台 × □ 時間/日 × □ 日 ÷ 1000 =	□ kWh □
合計	13,233.00 kWh
13,233.00 kWh ÷ 1000 × 0.495 (排出係数) = 6.6 t-CO ₂ /年	

- ・更新にあたって、稼働時間、稼働日数は前後で変更しないでください。
- ・また、稼働時間×稼働日数は、法定耐用年数とメーカーのカタログ値のいずれか小さい値が上限となります。
- ・設置する箇所ごとに導入する機種・型番がわかるようにしてください(この例では(A)、(B)と記載し、添付するカタログや図面等の該当箇所に(A)、(B)と記載)
- ・※機種の種類が多いなど、この様式によるのが難しい場合は、別シートによる申請も可です。

※導入前後のエネルギー使用量は、当該設備の能力、稼働時間等から算出してください。

導入後のCO₂排出量

6.6 t-CO₂/年

導入前のCO ₂ 排出量	導入後のCO ₂ 排出量	CO ₂ 排出削減予測量
12.9 t-CO ₂ /年	6.6 t-CO ₂ /年	6.3 t-CO ₂ /年

対象設備の法定耐用年数

15 年

耐用年数CO₂排出削減予測量

94.5 t-CO₂/耐用年数年

6 CO₂排出削減量算定(複数種類がある場合は種類ごとに記載)

ボイラー

導入前

既存ボイラ

燃料の種類	A重油
昨年度 燃料使用量	100 kL
既存ボイラの効率	80 %
台数	1 台

$$200 \text{ kL} \times 39.1 \text{ GJ} \times 0.0189 \text{ t-C/GJ} \times 44/12 = 541.93 \text{ t-CO}_2/\text{年}$$

単位発熱量 排出係数

※ CO₂排出量は、小数点第2位を四捨五入して、小数点第1位までの表記としてください。

※導入前後のエネルギー使用量は、当該設備の能力、稼働時間等から算出してください。

導入前のCO₂排出量

541.9 t-CO₂/年

導入後

導入予定ボイラ

省エネ手法	燃料転換・設備の高効率化	(その他の場合の説明:)
導入設備	高効率タイプに更新	
燃料の種類	都市ガス(13A:45MJ/m ³)	
導入予定ボイラ効率	95 % (燃料転換のみの場合は同じ効率を入力)	
台数	2 台	

<燃料転換後の燃料使用量の算定>

$$\left[\begin{array}{l} \text{【昨年度の燃料ベース(発熱量)で転換後の燃料を使用すると仮定】} \\ 200 \text{ kL} \times 39.1 \text{ GJ} \div 45 \text{ GJ} = 173.78 \text{ 千Nm}^3 \\ \text{※昨年度燃料使用量} \qquad \qquad \qquad \text{※燃料転換以外は同じ数値} \end{array} \right]$$

<高効率化、燃料転換後のCO₂排出量の算定>

$$173.78 \text{ 千Nm}^3 \times 45 \text{ GJ} \times 0.0136 \text{ t-C/GJ} \times \frac{80\%}{95\%} \times 44/12 = 328.39 \text{ t-CO}_2/\text{年}$$

単位発熱量 排出係数

※ CO₂排出量は、小数点第2位を四捨五入して、小数点第1位までの表記としてください。

※導入前後のエネルギー使用量は、当該設備の能力、稼働時間等から算出してください。

導入後のCO₂排出量

328.4 t-CO₂/年

導入前のCO ₂ 排出量		導入後のCO ₂ 排出量		CO ₂ 排出削減予測量
541.9 t-CO ₂ /年	-	328.4 t-CO ₂ /年	=	213.5 t-CO ₂ /年

対象設備の法定耐用年数
10 年

耐用年数CO ₂ 排出削減予測量
2,135.4 t-CO ₂ / 耐用年数年

燃料の種類	単位	単位発熱量	排出係数
灯油	kL	36.7	0.0185
A重油	kL	39.1	0.0189
B・C重油	kL	41.9	0.0195
LPG	t	50.8	0.0161
LNG	t	54.6	0.0135
都市ガス(13A:45MJ/m ³)	千Nm ³	45	0.0136
都市ガス(13A:43.12MJ/m ³)	千Nm ³	43.12	0.0136
都市ガス(13A:46.04MJ/m ³)	千Nm ³	46.04	0.0136
都市ガス(12A:41.86MJ/m ³)	千Nm ³	41.86	0.0136
都市ガス(6A:29.30MJ/m ³)	千Nm ³	29.3	0.0136

省エネ手法
設備の高効率化
燃料転換
燃料転換・設備の高効率化

導入設備
高効率タイプに更新
同効率タイプに更新
バーナー交換
その他

6 CO₂排出削減量算定(複数種類がある場合は種類ごとに記載)

太陽光発電

導入前

①導入前の事業所全体の電力使用量 kWh/年

$$\frac{\text{排出係数}}{\text{電力使用量}} = \frac{0.495}{10,000.0 \text{ kWh}} \times 1000 = 5.0 \text{ t-CO}_2/\text{年}$$

①の電力使用量については、電力会社からの請求書等の数値を記載してください。

(導入前のCO₂排出量は、0t-CO₂)

導入前のCO₂排出量

t-CO₂/年

導入後

太陽光発電設備の導入

②導入予定の太陽光 発電量 kWh/年
(発電量の積算は別紙)

・事業所の営業・稼働日数 / 365 日 = % (稼働率)

①事業所全体電力使用量 kWh - ②太陽光発電量 kWh = kWh (余剰なし)

(②太陽光発電量 kWh - ④余剰分) × ③稼働率 % = ⑤自家消費分の発電量 kWh

⑤自家消費分の発電量 kWh × 排出係数 0.495 ÷ 1000 = t-CO₂/年

②発電量の根拠(メーカーのシミュレーション値など)を別途提出していただきます。
※機種の種類が多いなど、この様式によることが難しい場合は、別シートによる申請も可です。

※太陽光発電設備に係る補助対象経費は、⑥補助対象経費割合により算出し、残りは補助対象外経費に計上すること。

⑤自家消費分の発電量 kWh / ②導入予定の太陽光 発電量 kWh = ⑥補助対象経費割合 %

導入後のCO₂排出量

t-CO₂/年

導入前のCO₂排出量

t-CO₂/年

導入後のCO₂排出量

t-CO₂/年

CO₂排出削減予測量

t-CO₂/年

対象設備の法定耐用年数

年

耐用年数CO₂排出削減予測量

t-CO₂ / 耐用年数年

6 CO₂排出削減量算定(複数種類がある場合は種類ごとに記載)

導入前	
導入前のCO ₂ 排出量	t-CO ₂ /年

導入後	
導入後のCO ₂ 排出量	t-CO ₂ /年

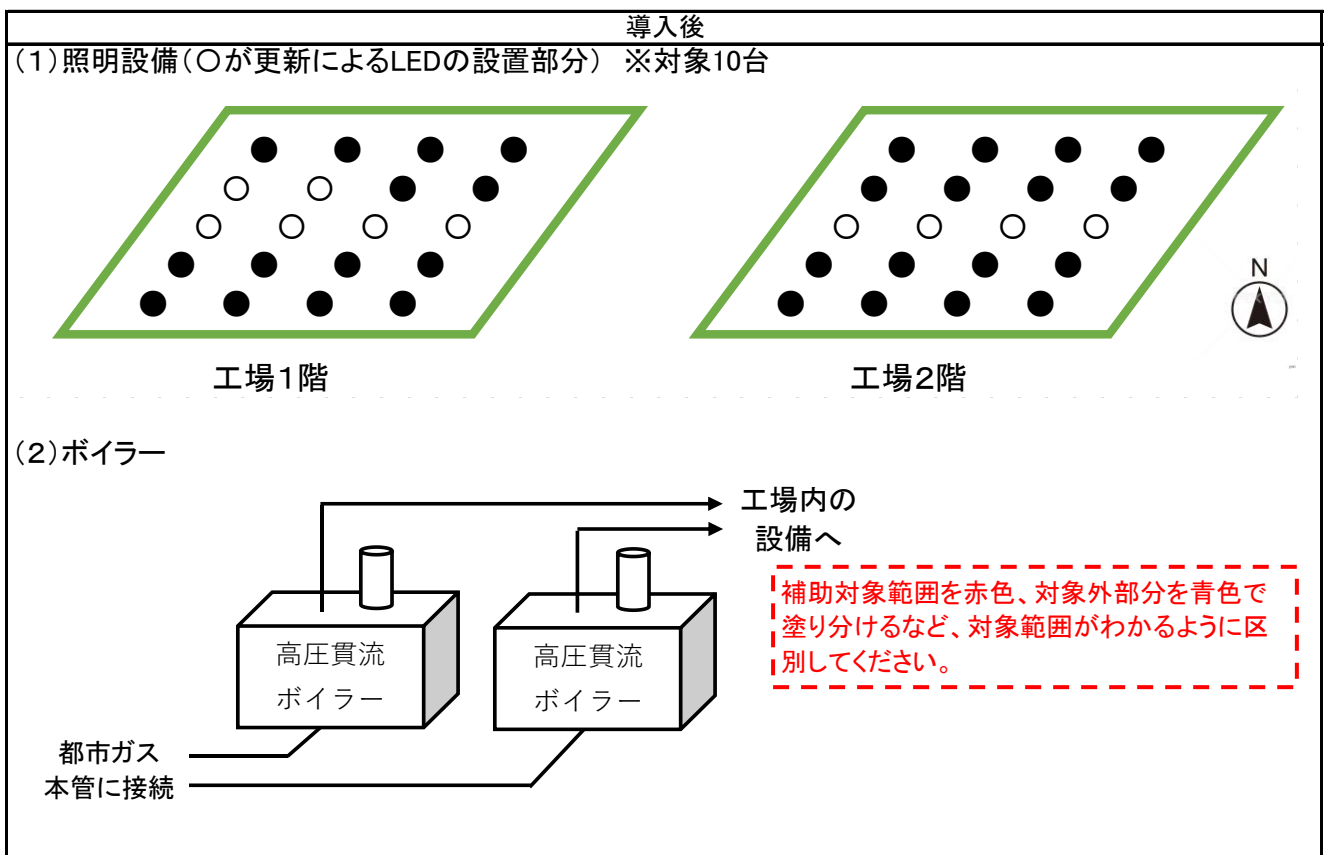
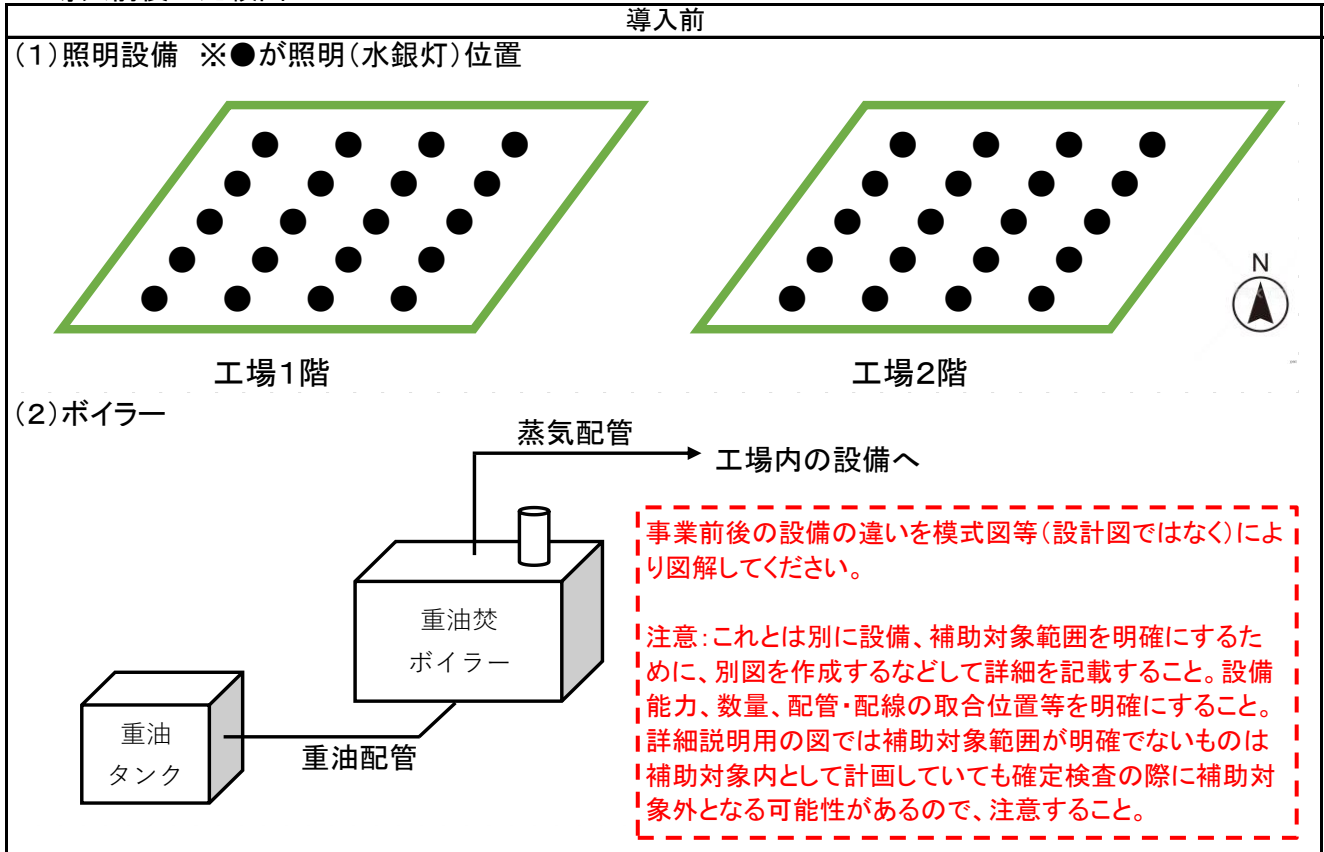
導入前のCO ₂ 排出量		導入後のCO ₂ 排出量		CO ₂ 排出削減予測量
0.0 t-CO ₂ /年	-	0.0 t-CO ₂ /年	=	0.0 t-CO ₂ /年

対象設備の法定耐用年数	
	年

耐用年数CO ₂ 排出削減予測量	
0.0	t-CO ₂ / 耐用年数年

- ※ 導入前後のエネルギー使用量は、当該設備の能力、稼働時間等から算出してください。
- ※ CO₂排出量の算定にあたっては、募集要領の別表1にある排出係数等を使用して算出してください。
- ※ CO₂排出量の端数処理については、小数点第2位を四捨五入して、小数点第1位までの表記としてください。

7 導入前後の比較図



※ この様式に記載できない場合は、「別添のとおり」と記載の上、別途、導入前後の概略図を添付すること。

8 事業所の直近3か年の原油換算エネルギー使用量

事業所で直近3か年に使用した全てのエネルギー(電気、ガス、重油、灯油、等)の合計を原油換算した結果を記載してください。対象事業所全体のエネルギー使用量を記載してください。

直近3か年の原油換算エネルギー使用量 (単位キロリットル)	平成28年度 (3か年度前)	平成29年度 (2か年度前)	平成30年度 (昨年度)	平均
	1,050	980	960	997

※原油換算は、別添、簡易版「エネルギー使用量・CO₂排出換算シート」を使用して算出してください。

9 省エネルギー診断の受診

上記原油換算エネルギー使用量(昨年度)が、100kL以上の事業所は必ず受診してください。

※100kL未満の場合は任意となります。

昨年度の使用量が100kL以上の場合、診断は必須となります。
(3年以内に受診済の場合は不要)
100kL未満の場合、診断の申込みは任意です。

(1)これから受診する場合
ア 受診予定機関

省エネ診断 申込予定 機関	埼玉県(無料)
	一般財団法人省エネルギーセンター(無料省エネ診断)

※ いずれかに○をつけること。

(2)過去に受診済の場合

※交付申請前過去3年以内に受診済の場合、診断結果報告書を添付してください

3年以内に受診済(診断レポートを受領していること)場合、
以下に記入してください。

ア 受診機関

省エネ診断 実施機関	埼玉県(省エネナビゲーター事業診断)
	埼玉県(エネルギーマネジメント事業者診断)
	環境ネットワーク埼玉
	一般財団法人省エネルギーセンター(無料省エネ診断)

※ いずれかに○をつけること。

受診年月日	平成	年	月	日
-------	----	---	---	---

診断結果報告 書受理日	平成	年	月	日
----------------	----	---	---	---

10 予定している導入設備に関する資産登録

(補助対象事業の実施により取得する設備に関し、申請者において資産管理することとしています。導入を予定している設備の資産登録内容について記入してください。)

(1) 資産登録の予定時期

令和 年 月 に資産登録する予定です。

(2) 予定される資産状況

	資産の分類	資産名	耐用年数
1	建物附属設備	高効率LED照明	15 年
2			年
3			年
4			年
5			年
6			年
7			年
8			年
9			年
#			年

※ 資産の分類は、次の中から選択してください。

(1) 建物附属設備、(2) 構築物、(3) 器具及び備品、(4) 機械及び装置、(5) その他

※ 耐用年数は、「5 費用対効果」に記載する「対象設備の法定耐用年数」と一致させてください。

[埼玉県民間事業者CO₂排出削減設備導入補助金] 簡易版「エネルギー使用量・CO₂排出量換算シート」

対象事業所で使用しているエネルギー種類別に、該当する項目に数値を入力ください。			使用量		単位当たり発熱量	熱量	原油換算	原油換算使用量	排出係数	二酸化炭素排出量		
			①	②	③=①×②	④	⑤=①×②×④	⑥	⑦=①×②×⑥×44/12			
			数値	単位	単位	GJ	kL/GJ	kL	単位	t-CO ₂		
エネルギー起源CO ₂	燃料	原油(コンデンセートを除く)		kL	38.2	GJ/kL		0	0.0187	t-C/GJ	0.0	
		原油のうちコンデンセート(NGL)		kL	35.3	GJ/kL		0	0.0184	t-C/GJ	0.0	
		揮発油(ガソリン)		kL	34.6	GJ/kL		0	0.0183	t-C/GJ	0.0	
		ナフサ		kL	33.6	GJ/kL		0	0.0182	t-C/GJ	0.0	
		灯油		kL	36.7	GJ/kL		0	0.0185	t-C/GJ	0.0	
		軽油		kL	37.7	GJ/kL		0	0.0187	t-C/GJ	0.0	
		A重油		kL	39.1	GJ/kL		0	0.0189	t-C/GJ	0.0	
		B・C重油		kL	41.9	GJ/kL		0	0.0195	t-C/GJ	0.0	
		石油アスファルト		t	40.9	GJ/t		0	0.0208	t-C/GJ	0.0	
		石油コークス		t	29.9	GJ/t		0	0.0254	t-C/GJ	0.0	
		石油ガス	液化石油ガス(LPG)		t	50.8	GJ/t		0	0.0161	t-C/GJ	0.0
			石油系炭化水素ガス		千Nm ³	44.9	GJ/千Nm ³		0	0.0142	t-C/GJ	0.0
		可燃性天然ガス	液化天然ガス(LNG)		t	54.6	GJ/t		0	0.0135	t-C/GJ	0.0
			その他可燃性天然ガス		千Nm ³	43.5	GJ/千Nm ³		0	0.0139	t-C/GJ	0.0
		石炭	原料炭		t	29	GJ/t		0	0.0245	t-C/GJ	0.0
			一般炭		t	25.7	GJ/t		0	0.0247	t-C/GJ	0.0
			無煙炭		t	26.9	GJ/t		0	0.0255	t-C/GJ	0.0
		石炭コークス		t	29.4	GJ/t		0	0.0294	t-C/GJ	0.0	
		コールタール		t	37.3	GJ/t		0	0.0209	t-C/GJ	0.0	
		コークス炉ガス		千Nm ³	21.1	GJ/千Nm ³		0	0.0110	t-C/GJ	0.0	
高炉ガス		千Nm ³	3.41	GJ/千Nm ³		0	0.0266	t-C/GJ	0.0			
転炉ガス		千Nm ³	8.41	GJ/千Nm ³		0	0.0384	t-C/GJ	0.0			
その他燃料	都市ガス ^(※)	13A:45MJ/m ³		千Nm ³	45	GJ/千Nm ³		0	0.0136	t-C/GJ	0.0	
		13A:43.12MJ/m ³		千Nm ³	43.12	GJ/千Nm ³		0	0.0136	t-C/GJ	0.0	
		13A:46.04MJ/m ³		千Nm ³	46.04	GJ/千Nm ³		0	0.0136	t-C/GJ	0.0	
		12A:41.86MJ/m ³		千Nm ³	41.86	GJ/千Nm ³		0	0.0136	t-C/GJ	0.0	
		6A:29.30MJ/m ³		千Nm ³	29.3	GJ/千Nm ³		0	0.0136	t-C/GJ	0.0	
小計						0			0.0			
熱	産業用蒸気		GJ	1.02	GJ/GJ		0	0.060	t-CO ₂ /GJ	0.0		
	産業用以外の蒸気		GJ	1.36	GJ/GJ		0	0.057	t-CO ₂ /GJ	0.0		
	温水		GJ	1.36	GJ/GJ		0	0.057	t-CO ₂ /GJ	0.0		
	冷水		GJ	1.36	GJ/GJ		0	0.057	t-CO ₂ /GJ	0.0		
	再生可能エネルギーの環境価値を移転した熱		GJ					0.057	t-CO ₂ /GJ	0.0		
	小計									0.0		
電気	買電		千kWh	9.76	GJ/千kWh	0.00	0	0.495	t-CO ₂ /千kWh	0.0		
	再生可能エネルギーを自家消費した電		千kWh					-0.495	t-CO ₂ /千kWh	0.0		
	小計									0.0		
外部供給	自ら生成した熱の供給		GJ							0.0		
	自ら生成した電力の供給		千kWh							0.0		
	小計									0.0		
コージェネレーションシステムの利用												
合計						0.0258	0			0.0		

(対象事業所全体の場合)この数値を「事業計画書1ページの該当欄に転記してください。

(導入前、導入後の対象設備の場合)この数値がCO₂排出量となります。
 ①導入前の数値で入力したものを一度打ち出し
 ②導入後の数値を入力して打ち出し
 ③①から②を差し引いた数値が削減量となります。